

平成28年度 男女共同参画推進室 事業報告

はじめに

男女共同参画推進室は、平成22年2月に設置され、平成23年4月に完成した多目的保育施設「たけのこ」を拠点に、男女共同参画推進のための各種支援を行なっている。

平成25年4月からは学則上の組織として位置付けられ、女性研究者の活動支援の充実と男女共同参画の推進を図ってきた。また、平成28年4月から浜松キャンパス内に分室を設置し、同キャンパスにおける男女共同参画推進の拠点とした。

推進室では、「女性研究者支援も出る育成事業（平成20～22）」の採択を経て、平成25年度には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）（～平成27年度）」（以下、「拠点型事業」という）にも採択され、平成28年度は、拠点型事業の継続事業として、これまで取組んできた研究者支援とワークライフバランスの推進に引き続き努めるとともに、地域の拠点として研究者支援策の普及に一層努めた。

さらに、本年度は新たにJST女子中高生の理系進路選択支援プログラム（～29年度）に採択され、共同実施機関の静岡県立大学とともに、同プログラムの活動を実施した。

ここに平成28年度の取組を総括し、平成29年度への課題を述べる。

1. 第3期行動計画

男女共同参画憲章（平成20年制定）に基づく第3期の行動計画（平成28～33年度）の初年度として、昨年度までの第2期行動計画に引き続き計画の遂行に務めた。

特に、拠点型事業で行っていた一時保育支援制度及び病児・病後児保育新制度の全学教職員対象の導入、他機関との連携活動などについて、所期の成果をあげることができた。

2. 第3期中期目標・中期計画への対応

本年度から新たに第3期中期目標・中期計画が開始され、推進室においても中期計画に基づく活動を展開した。

（1）中期計画60番（女性教員採用加速システム（人件費支援等）を活用して女性教員比率16%以上とする。また、役員は1名以上、管理職は13%以上の女性を登用する。）

①女性研究者（教育者）採用状況

女性教員の採用が増進することを目的とした「女性教員採用加速システム実施要項」及び「ガイドライン」の改正を行なった。（人事課）

また、本年度より開始したJST支援事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」のキックオフシンポジウム（浜松：7/24、静岡：7/31）において、同シンポジウムに参加した女子中高生及び保護者に対し、ロールモデルとして本学の女性研究者による講演を行い、理系への進路を検討する一助とした。

また、情報・理・工・農の各学部オープンキャンパスに相談コーナーを設け、現役の学生を相談員として配置して、中高校生や保護者に対して進路選択への助言を行った。

【本年度の実績】

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間に17名の教員（常勤のみ）が採用され、そのうち女性教員は4名であった（女性教員採用比率23.5%）。

②女性教職員の管理職への登用状況

本年度の登用状況は以下のとおりであった。

- 経営協議会における女性委員・・・2名
- 教員の女性管理職・・・副学長1名、学長補佐1名
- 事務局の女性管理職・・・課長級2名
- 事務局の女性準管理職・・・副課長2名

(2) 中期計画 6 1 番 (男女共同参画憲章に基づく行動計画により、セミナー、シンポジウム、研修、ホームページの充実やニュースレターの発行等を通し、第 2 期中期目標期間に引き続き啓発を行う。)

- ・昨年度終了した J S T 支援事業への参加連携機関及び本学が中心となり実施した「男女共同参画のための共同宣言」に参加した連携機関を含めて新たに「しずおかレインボーネットワーク」を立ち上げ、定例交流会を開催して引き続き男女共同参画に関する意見交換と情報共有を進めた。(6月23日、10月24日、2月16日開催)
- ・推進室主催のメンタリング事業として、毎週木曜に「たけのこ cafe」を開催し、教職員のメンタリング支援の一助とした。(静岡キャンパス 35 回開催、浜松キャンパス 13 回開催)
- ・女性管理職経験者と教職員とのメンタリングランチ会(8月2日 8名参加、10月20日 6名参加)や、保健センター教員を講師に地域住民にも参加を呼びかけて「感染症対策講座」(11月15日 11名参加)を開催するなど、推進室の事業を推進した。
- ・静岡県立大学教授石川准氏を講師に招き、障がい者政策とテクノロジーを中心テーマに、役職者を対象とした「静岡大学トップセミナー」を開催した(2月8日、30名参加)。

(3) 中期計画 6 2 番 (支援的職場環境を醸成するため、各種制度の充実に取り組むとともに、性別に関わりなく支援制度の利用を拡大する。)

- ・男女共同参画推進室規則を改正し、本年4月から男女共同参画推進室浜松分室を開設するとともに、副室長を配置した。なお、同分室を平成29年1月26日に工学部7号館内に移転した。
- ・本年4月から新たに制定した子育て支援関係の各要項について、全教職員に周知を行った。
- ・男女共同参画相談員を各部局に配置するとともに、ポスター掲示による学内周知を図った。
- ・浜松キャンパスにおいて学童保育所を開設し、教職員の就業支援を図った。(夏季学童保育教職員利用者：16名(児童22名)、春季学童保育所教職員利用者：4名(児童7名))
- ・子育て支援の一環として、入試業務従事時における一時保育費用の全額を大学が負担することとした。また、学生の子育て支援として、一時保育費用補助のあり方について検討を行った。
- ・女性研究者による連携研究支援経費の公募を行い、1名に研究費の支援を行った。
- ・3名の若手女性研究者に対し、論文投稿経費等の支援を行った。
- ・学内の一斉休業日の見直しを行い、従来からの8月における一斉休業日に加え、新たに12月28日を一斉休業日とした。これに関連し、ワークライフバランスを考慮した教職員の計画的な休暇の取得等について7月及び12月開催の事務協議会において説明を行い、学内における啓発を図った。(職員課)
- ・テレビ会議システム及びメール会議の積極的な利用と併せ、議題及び会議資料の事前周知により効果的な会議運営へ改善を図ることにより、ワークライフバランス確保の一助とした。(職員課)

3. 男女共同参画推進室の活動状況

(1) 浜松学童保育(愛称「キッズ・ラボ」)の実施

夏休みと春休みの長期休暇期間中に実施している学童保育は、本学関係者以外の利用も多く、社会的評価が定着している。運営は、平成25年春休み(平成24年度事業)から、安定的運営と効率化のため、外部委託しているが、平成28年度も入札により委託先を「特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会」に決定し、委託契約を締結した。

契約額は、3,259,990円であったが、利用料収入が2,440,000円あったので、本学の負担額は、819,990円であった。

夏休みは、平成28年7月25日～8月31日の土曜日、日曜日と夏季休暇を除く25日間実施し、定員一杯の40名の参加(申し込みが定員を超えたため選考を行い、本学関係者の児童22名と学外からの児童18名に入所を許可)があった。

春休みは、平成28年3月22日～4月6日の土曜日、日曜日を除く12日間実施し、19名の参加(本学関係者の児童6名の他に学外からの児童13名に入所を許可)があった。

(2) 静岡多目的保育施設（愛称「たけのこ」）の運営

平成28年度1年間の利用実績は、一時保育延91名、授乳延14名、学内外からの施設見学16名、ゼミ等利用延193名、その他ミーティングや打合せ・相談など延67名、推進室の会議（定例、臨時）が14回行われた。また、子育て支援事業（アートとコミュニケーション教材発表会、感染症対策講座）を2回行い、親子23名が参加した。なお、平成28年度は、緊急時（学級閉鎖）の利用はなかった。

教育学部開講の「アートとコミュニケーション」の受講生により、子ども向けの教材作成が行われ、保育環境の整備を図った。

(3) 相談窓口

平成24年度から、各部局の男女共同参画推進委員が相談窓口となるシステムに変更し、平成28年度は延37件の相談があった。

(4) 研究支援員制度

平成25年度より募集を通年とし、募集も随時の受付として制度運用の要件を緩和する一方で、報告義務を強化した。平成28年度は、7名の研究者に7名の支援員を、週当たり延61時間配置した。研究の進捗と効率化が図れるとともに、ワークライフバランスの推進に寄与した。

(5) 学会参加時保育支援制度の拡大

入試業務に従事するときも保育支援がほしいという要望に応じて、平成25年度から入試業務にも適用できるよう制度を改め、平成28年度は学会参加2件、入試業務で4件合計6件の利用があった。また、入試業務における一時保育支援費用は、全学入試委員会からの要望を踏まえ、本年度から全額を負担することとした。

(6) メンター制度

新任の女性教員に対してメンターをマッチングさせ、2名に対してメンターを割り当てた。また、本年度から新規採用の男性教員のうち希望する教員にもメンターが配置するようにしたため、男性教員2名が希望したため男性教員にもメンターを配置した。なお、昨年度に引き続き外部へ委託してメンター講習を実施した。

(7) 休業・休暇制度の利用

平成28年度中に育児休業を取得した教職員は22名（うち平成28年度に新たに取得した者は10名）で、女性10名、男性0名であった。また、復帰後の育児短時間勤務の利用者は2名であった。

平成24年度より、特別休暇の一つとして、リプロダクティブヘルス休暇の制度を導入し、不妊治療等での休暇取得を可能としているが、平成28年度の利用者は8名であった。

4. 学生、中高生への啓発事業

(1) 学際科目

静岡・浜松両キャンパスで「ジェンダーからみる現代社会」を開講し、受講者は合計64名（静岡56名、浜松8名）であった。社会人6名を招き、キャリアセミナーを5回設けた。

(2) ジェンダー関連科目の広報

学生の履修登録期間にポスターや電光掲示板により、ジェンダーに関連する授業をリストアップして広報し、受講を勧めた。

(3) オープンキャンパス

8月9日（火）の浜松オープンキャンパスでは工学部と情報学部において、8月10日（水）の静岡オープンキャンパスでは理学部と農学部において、女子在校生による「女子高校生進学相談

コーナー」を開設した。また、情報学部で全参加者に女子寮を紹介するチラシを配布した。

女子高校生からの相談者数は、情報学部6名、理学部22名、農学部60名、工学部12名の合計50名であった。また、保護者からの相談にも応じた。

(4) 農学部出前授業

7月22日(金)に西遠女子学園高校学校(浜松市中区、対象は高校1年生)へ農学部教員が出前授業に出向いた。

(5) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

理系女子夢みつけ★応援プロジェクト in しずおか(通称:リケしず)

地域と連携して、中高生の進路選択を支援するイベントを開催した(詳細は、6. 地域と連携した男女共同参画に記載)。

5. 意識改革事業

(1) 新入生への啓発

従来3種類のリーフレット(男女共同参画の推進、多目的保育施設の案内、災害の対策をジェンダーの視点から考えよう)を新入生に配布していたが、平成28年度の新入生から、紙媒体での資料配付を取り止め、WEB上での情報提供に切り替えることとした。

(2) キャンパス・フェスタ in 静岡(11月19~20日)

ジェンダー・パネル展を多目的保育施設「たけのこ」において開催し、地域住民をはじめとする来場者に、ジェンダーへの関心を持ってもらう一助とした。

6. 地域と連携した男女共同参画

(1) 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」の継続事業

・しずおかレインボーネットワークの運営

昨年度終了した拠点型事業に参画した大学・企業等を中心に新たに本学を含め13機関で発足し、定例交流会を3回開催した。

交流会の目的は、拠点型事業で連携機関と協同展開した、意識改革と啓発、ワークライフバランスの推進、研究能力の向上と裾野の拡大、女性研究者の登用、推進手法と体制の整備、の各項目の継続的な普及である。

・女性研究者支援活動として、以下の事業を行った。

①女性研究者連携研究支援経費・・・1名に支援を行った。

②論文投稿支援制度・・・3名に支援を行った。

・「英語プレゼンテーション研修」の開催

9月16日(金)、本学静岡キャンパスにおいて、講師に連携機関の国立遺伝学研究所から広海健氏及び平田たつみ氏を招いて開催し、20名の参加があった。プレゼンテーションの目的、わかりやすく効果的なプレゼンテーションのやり方について、遺伝研で開発されたカリキュラム「遺伝研メソッド」をもとに、いくつかのトピックを紹介しながら、参加者が行ったプレゼンに対する指導等を交えたアドバイスがあり、好評を博した。

・健康教室(大人のためのラジオ体操)

7月12日、昼休みに「たけのこ」を会場として、教育学部中野教授を講師に開催した。(参加者18名)

・飛ぶ教室

一橋大学に出向き、本学の男女共同参画推進活動を紹介した。

・キャリア形成支援研修として、昼休み時間を活用し、メンタリングランチセミナーを2回開催

・平成28年8月2日 管理職メンター大村知子氏(参加者8名)

・平成28年10月20日 管理職メンター中野美恵子氏(参加者6名)

- ・平成25年度に開設した女性研究者研究活動支援事業（拠点型）専用のホームページを運営し、学内外に事業概要及び各種情報等を積極的に発信した。また、研究者相互の情報交換や意見交換を行えるように本学および連携機関の研究者が利用できる会員用メニューサイトも運用した。

(<http://www.sankaku.shizuoka.ac.jp/>)

(2) 科学技術振興機構「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

理系女子夢みつけ★応援プロジェクト in しずおか（通称：リケしず）

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」で培ったネットワークを活かし、科学技術振興機構の補助金を獲得して、中高生の進路選択を支援するイベントを開催した。

・キックオフシンポジウムの開催

これから進路を考える女子中高生に向けて、理系学部で学べることを紹介した後、女性研究者の講演、女子学生との交流会を開催した（浜松地区7月24日開催・44名参加、静岡地区7月31日開催・67名参加）。

・進路相談会の開催

詳細は4. 学生、中高生への啓発事業 (3) オープンキャンパスに掲載した。本プロジェクトの自己資金負担運営事業にも、位置づけられる。

・体験実験の開催

大学で行う実験や研究室見学を教育学部（11月19日）、情報学部（11月12日）、理学部（11月20日）、工学部（11月12日）、農学部（11月19日）で開催した。女子高校生からの相談者数は、教育学部2名、情報学部3名、理学部24名、農学部3名、工学部12名の合計43名であった。保護者も一緒に参加した。

3月22日（水）には、工学部機械工学科と合同で、「高校生のための機械工学体験セミナー、女子高校生のための理系実習体験セミナー」を開催し、65名が参加した。

・企業・研究機関見学会の開催

理系進路選択後に就く職業を知る企業・研究機関見学会を東部地区と西部地区で開催した。東部地区は、国立遺伝学研究所にて、3月26日に開催し、26名が参加した。西部地区は、浜松ホトニクス株式会社中央研究所にて、3月27日に開催し、4名が参加した。

・小中高教員へのアンケートの実施

6月から8月にかけて、附属小中学校5校および科学教育研究協議会研修会、静岡県教員研修会に参加した小中高教員を対象に、アンケート調査を実施した。女子児童・女子生徒が理科や算数・数学を学ぶことをあきらめるきっかけや、理系進路選択支援に必要なことを照査した。アンケート回収率は70.8%（456分の323）であり、小学校教員からは80、中学校教員からは198、高校教員からは45の回答が得られた。

・出前授業の実施

静岡新聞社「Future静岡出前授業」とタイアップし、県内高校13校にて出前授業を実施した。女子高生1,339名、保護者30名、教員18名が参加した。

(3) 子育て支援事業の実施

平成28年度は、教育学部「アートとコミュニケーション」受講生による教材発表会と本学保健センターの森俊明准教授による感染症対策講座を実施した。

- ・8月1日（月）「教材発表会」：児童と保護者を対象とし、12名の参加があった。
 - ・11月15日（火）「感染症対策講座」：児童と保護者を対象とし、11名の参加があった。
- 参加者から、多彩な子育て支援イベントを今後も開催してほしいとの声が寄せられた。

7. その他

(1) 外部からの定期的調査への回答

- ①国大協調査、②文科省調査（アンケート）、③静岡県、④他機関の訪問調査対応 等

(2) 外部からの要請への対応

- ①お茶の水女子大学「スペシャル・タナーレクチャー」に参加（平成28年5月18日）
- ②しずおか男女共同参画推進会議に参加（8月8日、10月24日）
- ③男女共同参画推進フォーラム（NWE Cフォーラム）に参加（8月26－28日）
- ④ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議に参加（9月13日）
- ⑤男女共同参画学協会連絡会にて本学の取組みを紹介（10月8日）
- ⑥内閣府理工系女子応援ネットワーク会議にて本学の取組みを紹介（10月20日）
- ⑦独立行政法人国立女性教育会館主催「大学等における男女共同参画推進セミナー」に参加
（11月29－30日）
- ⑧Q-weaスペシャルミーティングに参加（12月1日）
- ⑨ジャパン・ダイバーシティネットワーク シンポジウムに参加（平成29年2月3日）
- ⑩筑波大学「アンコンシャス・バイアスとマネジメント」に参加（3月17日）

(3) 発信

- ①ホームページを随時更新した。
- ②ニュースレターを4回発行した。
- ③ポスター、メール配信、電光掲示板を活用して情報提供を行った。
- ④図書館下の学務部掲示板の一角を男女共同参画コーナーとして学生にも情報を発信した。

(4) 推進体制

- ①男女共同参画推進委員会を6回開催した。（内1回はメール審議）
委員会に1つの小委員会と3つのワーキング会議を置き、課題に対する検討と集中審議を行う体制を整えた。
 - ・研究支援員制度運用小委員会
 - ・外部資金獲得準備WG
 - ・国際連携・学生向け事業検討WG（学生への一時保育費用支援策について検討を行った）
 - ・浜松分室運営検討推進WG
- ②男女共同参画推進室会議
室長及び室員による検討会議を年間25回開催

8. 今後の課題

平成29年度も、①意識改革、②女性の採用と登用、③ワークライフバランス、④学生向け事業、⑤地域連携事業という<5つのアジェンダ>を着実に進めていく。

地域における拠点機関として、第3期中期目標・中期計画の2年目となるため、中期計画に基づき、積極的な事業展開を図りながら、学内の各組織とも連携して学びやすく働きやすい大学を目指し、静岡大学の発展の一端を担っていく。

また、拠点型事業により構築された地域とのつながりをもとに諸事業の一層の推進を図り、新たな外部資金の獲得に向けた検討を進める。